

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名 ANZENノンワックス
会社名 ヤブ原産業株式会社
住所 〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546
担当部署 セールス&マーケティング部
作成者 技術開発部
電話番号 048-297-4111
FAX番号 048-290-1198
緊急連絡先 048-297-4111
推奨用途及び使用上の制限 体育館木部床の保護、仕上げ、防滑
整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性 引火性液体 区分3
健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分3
誤えん有害性 区分1
※上記以外は区分に該当しないか分類できない
環境に対する有害性
水生環境有害性 短期（急性） 区分1
水生環境有害性 長期（慢性） 区分1
※上記以外は区分に該当しないか分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語 危険
危険有害性情報 引火性液体および蒸気
軽度の皮膚刺激
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書

【安全対策】

熱／火花／裸火／高温体などのような着火源から遠ざけること。－禁煙
容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
（静電気に敏感な物質を積み直す場合）（製品が危険有害な気体を発生させるほど揮発性である場合）容器を接地し、アースをとること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器/（製造業者、供給者または所管官庁が指定する他の機器）を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護マスク／保護面を着用すること。（製品に有効な種類を使用する）

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：安静にしてただちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

皮膚または髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。

皮膚を水またはシャワーで洗うこと。

（水がリスクを増大させる場合）火災の場合：消火するために（製造者、供給者または所管官庁が指定する適当な手段）を使用すること。

漏出物を回収すること。

【保管】

換気の良い場所で、施錠して保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物/容器は国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品、混合物の区分：混合物

化学物質の特定、成分及び含有量

物質名	CAS No.	含有量 (%)	備考
ノルマルデカン	124-18-5	98 (代表値)	安衛法 表示・通知物質

※ 代表値であり、規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合：蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：付着物を布にて素早く拭き取る。

直ちに、全ての汚染され衣類を取り除くこと。

大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

眼に入った場合：直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。

嘔吐物は飲み込ませないこと。

医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護：適切な保護具（保護メガネ、防護マスク、手袋等）を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：炭酸ガス、泡、粉末

- 使ってはならない消火剤 : 水（棒状水、高圧水）
- 特有の消火方法 : 可燃性のものを周囲からすばやく取り除く。
 指定の消火剤を使用すること。
 高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
 消火活動は風上より行う。
 容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとること。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
 保護具および緊急時措
 置 : 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用する。
 付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
- 環境に対する注意事項 : 河川への排出などにより、環境への影響を起ささないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の
 方法・機材 : 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
 付着物、廃棄物等は関係法規にもとづいて処置すること。
 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲
 って流出を防止する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い : 換気の良い場所で取り扱う。
 容器はその都度密閉する。
 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
 工具は火花防止方のものを使用する。
 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
- 保管 : 日光の直射を避ける。
 通風のよいところに保管する。
 火気、熱源から遠ざけて保管する。
 子供の手の届かないところに保管する。
 盗難防止のために施錠保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度 ACGIH(TLV-TWA)
ノルマルデカン	設定されていない	設定されていない

- 設備対策 : 取扱い設備は防爆型を使用する。

排気装置をつけて、蒸気が滞留しないようにする。

液体の輸送、汲み取り、攪拌等の装置についてはアースをとるように設備すること。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用する。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 眼の保護具 : 取扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚および
身体の保護具 : 取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。
また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
- その他 : 静電塗装を行う場合には、通電靴を着用する。

9. 物理的および化学的性質

- 状態 : 液体
- 色 : 淡黄色透明
- 臭い : 溶剤臭
- 融点 : データなし
- 凝固点 : データなし
- 沸点または初留点及び
沸点範囲 : 174℃ (沸点)
- 可燃性 : あり
- 爆発下限界及び爆発
上限界/可燃限界 : データなし
- 引火点 : 53℃
- 自然発火点 : 210℃
- 分解温度 : データなし
- PH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- n-オクタノール/水分配
係数 : データなし
- 蒸気圧 : 170 Pa (25℃) (参考値)
- 蒸気密度 (空気 = 1) : 3.66~3.70g/cm³
- 比重 : 0.73 (23℃)
- 溶解度 : 水に不溶
- 相対ガス密度 : データなし
- 粒子特性 : データなし

10. 安定性および反応性

- 反応性 : 通常条件では反応しない。
- 化学的安定性 : 常温付近では危険な反応はしない。
(危険有害反応可能性)
- 避けるべき条件 : 製品そのものの加熱は危険な反応を起こす。
高温の物体、火花、裸火、静電気火花。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼によりCO、No x 等の有害ガスを発生する恐れがある。

その他の危険性情報 : 蒸気は引火して爆発する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性

経口	:	分類できない
経皮	:	分類できない
吸入 気体	:	区分に該当しない
蒸気	:	分類できない
粉塵、ミスト	:	区分に該当しない
皮膚腐食性・刺激性	:	区分3
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	分類できない
呼吸器感作性または皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性－単回ばく露	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性－反復ばく露	:	分類できない
誤えん有毒性	:	ノルマルデカン（区分1）

12. 環境影響情報

水生環境有害性短期(急性)	:	区分1
水生環境有害性長期(慢性)	:	区分1
オゾン層への有害性	:	区分に該当しない

一般注意事項

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
- ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

その他の情報

生体毒性	混合物としてデータなし
残留性・分解性	混合物としてデータなし
生体蓄積性	混合物としてデータなし
土壤中の移動性	混合物としてデータなし
オゾン層への有害性	混合物としてデータなし

13. 廃棄上の注意

排気残留物の記述とその安全な取り扱いに関する情報 : 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約（マニフェスト）をして処理をする。

容器、機器などを洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

廃塗料などを焼却処理する場合には、珪藻土などに吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。または焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。ただし、ダイオキシンなどの有害ガスが発生する

恐れがある場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び処理すること。
特別管理産業廃棄物（廃油）に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

汚染容器包装の廃棄方法 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 1263
国連分類 : クラス3（引火性液体）
容器等級 : III
国連品名 : 塗料・シンナー（引火性）
指針番号 : 128

特別の安全対策

共通 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。

15. 適用法令

消防法 : 危険物第四類第二石油類（非水溶性液体）危険等級III
労働安全衛生法 : 第57条第1項 名称を表示すべき危険物及び有害物（ノルマルデカン）
第57条の2 名称を通知すべき機縁物及び有害物（ノルマルデカン）
施行令別表第一 危険物（引火性の物）
大気汚染防止法 : 法第二条第四項 揮発性有機化合物
船舶安全法 : 引火性液体類
航空法 : 引火性液体
海洋汚染防止法 : 施行規則第30条の2の3 環境有害物質
施行令別表第一 有害液体物質（Y類物質）
港則法 : 法第二十一条二 危険物・引火性液体類

16. その他の情報

参考文献

- ・GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会編集）
- ・塗料用データベース（日本塗料工業会編集）
- ・溶剤ハンドブック
- ・化学商品（化学工業日報社）
- ・NITE（製品評価技術基盤機構）提供GHS分類結果DB
- ・塗料原材料便覧

・原材料のSDS

・ACCIH : Threshold Limit Values for Chemical substances and Physical Agents

注意

本データシートは、作成時または改訂時において、製品およびその含有成分等に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報など）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には、追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。